

情報文化学会
第8回全国大会
講演予稿集

2000年11月18日（土）

会場：聖学院大学

主催：情報文化学会

協賛：株式会社NTTデータ

阪神大震災時の心に関する生活情報の分析から

金蘭短期大学 三石博行 (h-mitsuishi@kinran.ac.jp)

キーワード 阪神大震災、心に関する生活情報、精神科医療、生活構造、生活様式、生活病理

はじめに

阪神大震災時の発生した心に関する生活情報の時系列傾向と、当時、精神科に救急入院をした患者数の時系列傾向の類似性について考察しながら、それらの生活情報の発生とその情報を生み出す生活構造や生活様式との相互の関係を分析する。現代の文明がもたらす生活病理現象としての心に関する生活習慣病や、災害時での緊急な精神科医療に関する必要性の増大等々、それらの文明的構造の分析を可能にする社会・文化情報に対する考現学的観測方法や情報文化現象から文化構造の解明の考察の技術を検討する材料、を模索する。

1. 阪神大震災で問われた精神科医療

阪神大震災では、災害に伴う被災者の PTSD・心的外傷後ストレス障害の発生や災害救護にあたった人々の精神的ケアなど、災害時の精神科救急など、これまでの震災では予想できなかった震災救援活動として、精神科救護活動が大きな問題になった。

兵庫県立精神保健福祉センターなどを中心に行なわれた災害後の精神科病院への入院患者数の調査では、震災1月17日に10名たらずであった患者数が、震災後3日目から急激に増大し、1月25日には80人弱に達し、震災発生後2週間で、被災地から兵庫県下の精神科医療施設に入院した者は550名に及び、これに大阪・岡山など他府県で入院した者を加えると、被災地の入院者数は、平時の3倍を大きく越えていたと言われている(1)。

しかし、1月末までに神戸市の被災中心地である長田区や中央区で精神科診療所で再開で

きた所は半数以下であった。そのため、北区、西区、明石市などの被災周辺地区や大阪などの近畿府県の医療機関で受診した人々も多くあった。

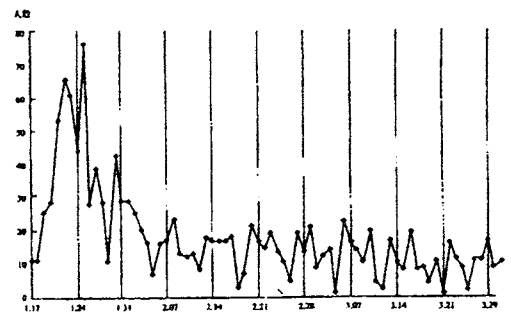


図1 入院患者数の推移(岩尾俊一郎)

このように、被災地の病院の被災と相まって、災害に伴う被災者や救護にあたった人々の心的外傷後ストレス障害の多発生や精神的ケアなどに対する精神科救護活動が問われ、今後、その対策が災害時の危機管理の課題として提起されている。

また、地震発生から2ヵ月後、兵庫県と神戸灘

生協が実施したアンケートから、3650名の自宅居住者と965名の仮設住宅居住者のストレス強度を、災害ストレスを強度を0から17までに分類した測定尺度に基づいて計量した結果、強度3をピークにして、強度1から7までにデータが集中する分布を得た。この調査結果は、災害ストレスは、震災そのものから直接に発生するだけでなく、地震後発生した社会的な混乱や激しい生活状況の変化に対応することの困難さによっても発生していることを示している(2)。

2. 阪神大震災で発生したところに関する生活情報

新聞情報の分析から

1995年1月17日から1996年1月16日までの毎日新聞が記載した阪神大震災に関する心の相談やケアなどの記事を、新聞社が所有するデータベースを活用し「阪神大震災 and ところ or 精神 and 相談 or ケア」の検索文字を入力し、全文検索した。その結果、756の記事が検索され、それらの全ての記事を出力した。

印刷された出力記事に目を通して、阪神大震災に直接関係する心の相談やケアに関する生活情報を持つ記事を選んだ。この中に生活情報として価値をもつ記事は、526件あり、その記事の中で、生命の維持に直接関わる情報として定義された一次生活情報を持つ記事は493件で、また、豊かな経済的生活を作り出すために生じる情報として定義された二次生活情報を持つ記事は33件であった。

これらの情報量の推移を調べるために、一次情報と二次生活情報をもっている記事の、二週間毎の合計件数と合計文字数の時系列変化の推移グラフを作った。

まず、一次生活情報に関する文字数の時系列

変化の推移傾向は、震災当日から2、3日までは多くはなかったが、2週間目にかけて急激に増加し、その後は減少傾向を顕著に示しながら、3月下旬から4月10までを過ぎると減少の傾向は緩やかになり、それから一年後まで、平均しても、減少の傾向は非常に緩やかに進む。

二次生活情報に関する文字数の時系列変化の推移傾向は、全体の平均が1251文字とすくない。震災直後から11月中旬まで平均するとさらに740文字ともっと少なく、この期間は多少の増減はあるが、殆ど変化はない。しかし、11月中旬をすぎてから1996年1月16日にかけて、次第に増加の傾向を示す。

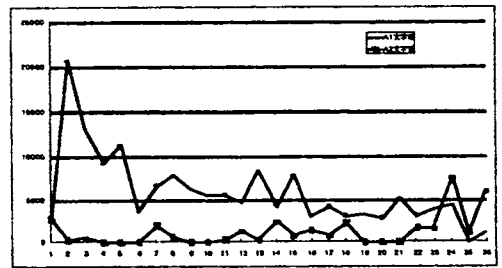


図2 文字数の時系列変化(三石博行)

阪神大震災以後発生した心に関する新聞紙面での一次生活情報の時系列変化は、モデルに比べると時系列の減少傾向は緩やかであり、また二次生活情報は、モデルとは異なる傾向を示している。

すでに、兵庫県立精神保健福祉センターなどを中心に調査された、災害後の入院者数の時系列変化の傾向に対して、毎日新聞記載された「ところに関する一次生活情報」の時系列変化の傾向には、約2から3週間ぐらいつれながらも共通したパターンを示している。

住民情報の分析から

阪神大震災時に発生した住民情報のなかで、ところのケアに関する情報は、震災から一ヵ月

以内に発行された第一期住民情報に集中する(3)。何故なら、第一期住民情報は、生存のための情報機能を持ち、一次生活情報を中心に発信しているためである。

例えば、中央なんでもかわら版は、1995年2月3日の第1号、全誌面の約0.9%、と2月5日の第2号、全誌面の約6.6%と、こころのカウンセリングを取り上げている。その後も、毎回ではないにしろ、頻繁に、こころのカウンセリングに関する情報を記載している。

また、ライフラインでは、2月26日発行の第4号に「心のケアのお問い合わせ」の記事が全誌面の約3%、3月5日発行の第5号に「心の相談窓口」の記事が全誌面の約26%、それぞれ記載されていた。

1995年1月25日に被災地で最も素早く生活情報を提供したデイリーニーズでは、2月24日発行の第28号に始めて「子供の心のケア相談所開設」の記事が全誌面の約7%記載されただけであった。

さらに、直接の被災地でない箕面市で、被災者を支援するために発行された「WANTED」では、1995年1月28日に発行された第3号の「カウンセリング」が全誌面の約6%、2月4日発行の第5号の「こころのケア24時間電話相談のお知らせ」が全誌面の約28%、2月11日発行の第6号の「こころのケア」が全誌面の約50%、3月29日発行の第11号の「心のケア」が全誌面の約13%、4月12日発行の第13号の「こころの相談室オープン」が全誌面の約21%と記載が多くなされていた。

3. 災害時の心に関する生活情報発生の推移傾向の生活病理的解釈

「心に関する一次生活情報」は、これまでの

研究から示された典型的な一次生活情報の発生のパターン、例えば飲料水や食料に関する情報と同じパターン(4)、を示さない。それらのパターンは二次生活情報に近いパターンを示している。しかし、「心に関する生活情報」の一次生活情報のパターンが、何らかの理由から、二次生活情報のパターンに移行したとも考えられないこともないが(5)、その理由は明確に掴めない。

しかしいずれにしても、兵庫県立精神保健福祉センターなどを中心に調査された災害後の入院患者数の時系列変化のパターンと、2、3週間ぐらいのずれがあるものの、共通した傾向を示しているのは、実際の震災時の社会状況と以後に発したところに関する生活構造や生活状況を基盤としてところに関する震災時の生活情報の発生が仕組まれていると解釈できる。

一般に、広義の情報概念は、吉田民人によると「エネルギーと資源のパターンである」と定義されるので(6)、生活情報とは「生活主体の行為や社会の生活に関するすべての活動とその全ての生活資材のパターンである」と考えることができる。

さて、ここで述べる生活に関係する社会的活動とは生活を取り巻く時代、文化・社会、共同体や家族の活動を意味し、また生活主体行為とは生活人と呼ばれる個人の生活に関する行為である。さらに、生活資材とは生活活動の場と主体を構成する物的な基盤や素材である。

ここで問題になっている阪神大震災時の「心に関する生活情報」は、阪神大震災が起こった時代やその地域や文化風土と、そこで生活していた人々の心を巡る活動に関するパターンであると言える。

阪神大震災時の「心に関する生活情報」の独

特の発生傾向の推移の形態から、心に関する生活構造や生活様式の在り方が想像できるかもしれない。こうした文化論的考察は、考現学や生活学を提案した今和次郎の考え方に拠るものである。また、彼は、衣食住を巡る生活構造の理解のために、農村社会での伝統や習慣的な生活スタイル、生活様式の分析を展開し、それが原因して生じる衣食住に関する不合理な考え方を、生活病理の内科的な側面として語った(7)。

確かに、被災者は、災害時に生命の直接的な危機に曝されるのみでなく、災害直後にも生活環境破壊による劇的な生活様式の変化を要請するために、精神的打撃を受けていることは言うまでもないし、それが精神的障害の直接的要因となりうる。が、また同時に、現代文明が作り出す新たな生活に順応するための現代の人々は日常的に精神的ストレスを受け、それと関係する心の生活習慣病を持つと報告されている(8)。つまり、生活主体の文明的病的構造が、個人差はあるものの、災害という非常事態の中で、心のバランスを失った生活者に、精神的病理症状や心の問題を誘発しやすくするとも言える。

震災によって生じる心の生活情報の内容やその発生形態から、逆に、現代社会の生活様式や生活構造の在り方を帰納的に考察することも可能であると考えられる。情報形態の震災によって生じる情報発生形態は丁度その情報の個体発生的な姿に類似するため、その発生の経過を観察することによって、情報発生の歴史的発生形態、つまり系統発生形態が理解できると考え(9)、心に関する生活情報の発生形態が、阪神地域と震災発生時の時代、社会、家族の心に関する生活構造や生活様式が持つ、文明的遺

伝子の構造分析を可能にしないだろうか。また、現在の都市生活様式での病理現象、つまり日本型都市文化の中での家族環境の在り方としての問題分析の材料とならないだろうか。

参考文献

- (1) 岩尾俊一郎 「震災時の精神科救急」 in 『こころの科学 66号 特別企画 大震災とこころのケア』、東京、日本評論社、1996.1、pp16-20
- (2) 林春男 「心的ダメージのメカニズムとその対応」 in 『こころの科学 66号 特別企画 大震災とこころのケア』、東京、日本評論社、1996.1、pp27-33
- (3) 三石博行 「阪神大震災時の住民情報の分析」 in 『日本災害情報学会 1999 年年度研究発表大会』、東北大学、1999.10、pp121-130
- (4) 三石博行 「阪神大震災以後の生活情報発生調査と生活情報構造分析」 in 『第5回情報文化学会全国大会講演予稿集』、pp20-23、1997.11.
- (5) 三石博行 「生活情報パターン移行現象と情報文化パラダイム」 in 『第6回情報文化学会全国大会講演予稿集』、1998.11、 pp32-35、
- (6) 吉田民人 「自己組織性の情報科学」、東京、新曜社、1990.7、pp3-4
- (7) 今和次郎 『生活学-今和次郎集第5巻』、東京、ドレス出版、1971.9、pp399-478
- (8) 福西勇夫 「すれすれ関連疾患としての生活習慣病」 in 『現代のエスプリ別冊 生活習慣の心理と病気』、東京、至文閣、2000.7、pp148-157
- (9) 三石博行 「生活構造論から考察される生活情報構造と生活情報史観の概念について」 in 『情報文化学会誌』、第6巻1号 1999.11、pp 57-63

【プログラム】

受付開始：9:00～（4号館4階）

開会式：9:45～10:00（A会場）

総合司会 正木鞆彦（情報文化学会 常任理事）

開会の辞 片方善治（情報文化学会 会長）

開会挨拶 大木英夫（聖学院院長 理事長）

研究発表：

<A会場> 統一テーマ「インターネット社会と情報文化」

●10:00～11:30 座長 横井茂樹（名古屋大学教授）

1 「情報文化の基調問題」…………… 三重野博司（東日本国際大学名誉教授）

2 「デジタルメディアにおける個別広告配信手法の分析と考察」

…… 小畑美奈子（名古屋大学大学院）、横井茂樹（名古屋大学教授）、安田孝美（名古屋大学助教授）

3 「インターネットによる情報発信とメディア選択-個人と小集団を中心に-」

…………… 加藤 光（東京大学大学院）

4 「インターネットにおけるバイヤードリブンビジネスモデルに関する考察」

…… 加藤智也（名古屋大学大学院）、横井茂樹（名古屋大学教授）、安田孝美（名古屋大学助教授）

5 「教材を自動的に作成するコンピュータ・ソフトの試作」

…… ハウザー・クリストファー（金城学院大学講師）、安田孝美（名古屋大学助教授）、横井茂樹（名古屋大学教授）

<A会場> マルチメディア研究部会「マルチメディアと情報文化」

●11:30～12:30 座長 中田 平（金城学院大学教授）

1 「情報通信の動向」…………… 高木友博（明治大学教授）

2 「ポルトガルにおける情報通信事情」…………… 阪井和男（明治大学教授）

<B会場> 統一テーマ「インターネット社会と情報文化」

●10:00～11:30 座長 増田隆昭（淑徳大学教授）

1 「アクセスの時代」における新しい情報文化の可能性…………… 若林一平（文教大学教授）

2 「サイバースペースの文学」- 電脳・言語空間における変容 -

…………… 氏家理恵（聖学院大学助教授）

3 「阪神大震災時の心に関する生活情報の分析から」

…………… 三石博行（金蘭短期大学助教授）

4 「情報過疎地域におけるビデオ・オンデマンド方式による情報配信」

— 公衆回線を使った動画伝送で離島・中山間地域へのビデオ配信システムの構築 —

…… 村澤忠司（三重大学教授） 門馬康之（インターネットARC情報ネットワーク本部長）